

- ジンバブエ
- スーダン
- セネガル
- タンザニア
- ナイジェリア
- ナミビア
- ニジェール
- ブルキナファソ
- ボツワナ
- マダガスカル
- マラウイ
- 南スーダン
- モザンビーク
- モーリシャス
- モロッコ

5か国9名の行政官が来日し自治体のごみ処理を学ぶ

「アフリカのきれいな街プラットフォーム」の活動の一環として、コートジボワール、スーダン、ナイジェリア、南スーダン、レントの廃棄物管理行政官が、2018年1月から2月にかけて日本の自治体のごみ処理を学ぶために来日した。

神奈川県横浜市では、ごみ処理の一連の流れを視察。街のごみ集積所では曜日ごとに分別し、朝8時までに出来るごみを清掃員が回収するという日本人には見慣れた光景に興味を示しつつ、自国の住民のごみ収集に関する意識の

向上や行政とのコミュニケーションの必要性を口にした。一行はまた、徹底した分別収集によるごみの減量化に取り組む鹿児島県志布志市も視察。埋め立て処分を行う各国の課題と共通する減量化の方法に強い関心を寄せていた。

神奈川県横浜市

右上:すでに埋め立て処分が終了している泉区の神明台処分場で、処分場からの浸出水を適正に処理するための排水処理施設を見学した / 右下:神奈川区の住宅街のごみ集積所を視察し、ごみ出しのルールを守る住民の意識の高さに感心。視察後、模擬的に収集作業も体験した



鹿児島県志布志市



左:志布志市にある「そりサイクルセンター松山有機工場」で、生ごみを堆肥化する施設を見学 / 右:同市民のごみ出しの様子。ごみ焼却施設を持たないため再資源化に力を入れており、分別が徹底されている

2017年4月に「アフリカのきれいな街プラットフォーム」が設立され、廃棄物処理に関する知見の共有や官民の資金動員促進、SDGsの推進を目的に、アフリカ加盟各国とパートナー機関が一つになって活動をスタート。18年1月には5か国の廃棄物管理の行政官が来日し、日本の自治体のごみ処理を学ぶ研修を行った。

アフリカのきれいな街プラットフォーム

AFRICAN CLEAN CITIES PLATFORM
PLATE-FORME AFRICAINE DES VILLES PROPRES



ごみ問題の解決に向けたプラットフォームが始動



モザンビークの首都マプトで「アフリカのきれいな街プラットフォーム」が設立され、加盟国の大臣や首長、伊藤忠彦環境副大臣らが出席した

経済成長と都市人口の急激な増加に伴って、ごみ問題が深刻化するアフリカの都市。持続可能な成長を続けるには、生活環境の改善が不可欠だ。16年8月にケニアのナイロビで開催された第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)のサイドイベントでは、ごみ問題を解決するための仕組み作りの必要性が参加者の総意として合意され、翌17年4月にはモザンビークでプラットフォーム設立のための準備会合が開催された。そして日本の環境省、JICA、横浜市、また国連環境計画、国連人間居住計画の提案で、「アフリカのきれいな街プラットフォーム」が設立され、「マプト宣言」が採択された。

現在、同プラットフォームの加盟国は29か国。政府や主要都市の廃棄物管理行政官が集まる年次会合の開催や、実務者の能力向上に向けた研修によって廃棄物管理の知見を広げ、加盟国内で共有するための活動が本格化している。

思いは一つ「きれいにしたい!!」



- アンゴラ
- ウガンダ
- エジプト
- エチオピア
- ガーナ
- カメルーン
- ギニア
- ケニア
- コートジボワール
- コモロ
- コンゴ共和国
- コンゴ民主共和国
- ザンビア
- ジブチ